

<来賓挨拶>

国土交通省都市局 横山征成 まちづくり推進課長

横山（国土交通省）：国土交通省の横山と申します。本日はエリアマネジメントシンポジウム 2015in 札幌の開催に当たりお招き頂きましてありがとうございます。主宰である札幌駅前通まちづくり株式会社の方々をはじめ、関係者の方々に敬意を表したいと思います。先進的なエリアマネジメントの取り組みが進んでいる北海道を皮切りに、京都大学によるリレーシンポジウムの始まりとお伺いしております。このような取り組みが開始されたことにもお慶び申し上げます。国土交通省としても民間の方々によるまちづくりが、より一層重要になってきていると考えております。都市再生特別措置法の改正も含み、街のにぎわいを実現していくことについて国土交通省も制度的な支援を行い、整備を進めているところです。しかし、依然として民間の方々の幅広い主体的な取り組みに対して、我々の政策・考え方が上手にかみ合っていないのではないかと、悩みながら議論をおこなっている所です。このように長年エリアマネジメントのことを考えてまいりましたが、改めて昨年 2 月に国土交通大臣から社会資本整備審議会に諮問しています。新時代のエリアマネジメントはいかにあるべきかについて、極めて幅広い議論を 1 年近くしていただいているところであります。議論は道半ばではありますが、エリアマネジメントのあり方については集中的に議論をしていて、この夏に中間とりまとめをおこない、次の一歩が踏み出せるように考えを整理したところです。特に、エリアマネジメント団体の自立性・継続性などの支援策や、公共団体と協力した環境整備などの考えを整理し示させていただきました。先日、財務省に概算要求も提出いたしました。その中でも現在まで民間まちづくりを支援している制度を少しでも拡充するために、既存のストックを生かすことや、リノベーションを進めるといったことに関し、明確な制度を打ち出し財務的にも強く支援できるような制度・予算の要求しているところです。しかしながら、国が制度で枠組みを決めると自主性や多様性とかみ合わないところが出てきてしまいます。そこで同時に、違う取り組みとして国土交通省も実際のエリアマネジメント団体の活動と関わり、エリアマネジメント団体同士が連携を強めていくこと、或いは都市再生推進法人やその支援を行っている公共団体との連携を強めていくこと等を国土交通省が主体となり取り組むことの検討を始めているところです。最後になりますが、エリアマネジメントシンポジウムが意義深いものとなり、エリアマネジメントが全国に展開されていくことを祈願いたしまして挨拶に代えさせていただきます。